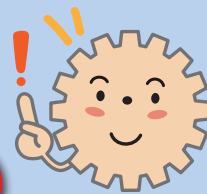


機能障害中心の介入に喝!



講座コード R-279

「生活行為障害」に対する急性期作業療法アプローチ

～患者一人ひとりのADLに即したオーダーメイドリスク管理～

日時: 2025年 **4月29日(火・祝)** 19:00～21:00

会場: インターネット生中継セミナー **見逃し受講期間 2週間あり**

講師: 塩田 繁人 先生 (広島大学病院)

対象: 看護師・PT・OT・ST (左記以外も受講可)

受講料: 会員 **5,400** 円 (税込) 一般 **6,400** 円 (税込)

※永久保存版 PDF スライド付



今、会員になると 年会費 4,900円が無料 実質 5,900円割引



機能が良くなればADLも勝手に良くなると思い込んでいませんか?



心機能データも改善して、動作テストも問題ないのに、退院後に生活動作がうまくできない・・・それって“生活行為障害”かもしれません。機能障害ばかりにアプローチをしていると、生活能力と乖離して、退院後の再入院やフレイルのリスクになることも。この講座では、生活行為障害に対するアプローチのプロ塩田先生が、ADLアップにつなげる「至適活動指導」について、最も顕著に影響が出る心不全を例に徹底解説。さあ、生活行為障害に対するアプローチを身につけて、患者さんの退院後に寄り添ったリスク管理をしてみませんか?

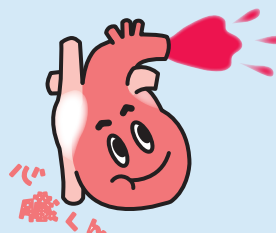
生活行為障害とは

ADLを含め、我々が毎日生活する上で行う生活行為が、フレイル・認知障害・身体機能の問題などによる障害された状態を示す。

“したい”動作に寄り添ったADLアプローチと患者を守るプロの技がここにある!



- ・そもそも生活行為障害ってなに? 問題の核心をみるための障害モデル5つのステップ
- ・機能だけではダメ! 高齢患者における生活行為の障害と負のループ
- ・心不全患者さんの身体活動量と生活行為の乖離! 心機能低下と生活障害の連関
- ・作業療法アプローチのための循環フィジカルアセスメントアセスメント
- ・「したい活動」を促すのが Patient Centered? 生活動作のギャップを見抜くアセスメント
- ・EF 30% ADL動作で血圧低下あり・・・作業療法ならではの至適活動アプローチ
- ・息切れ感で引きこもりがち心不全フレイル ～負のループを脱するための一手～



※この講座は離床アドバイザー取得コースの理論 0.5 単位・学会認定資格更新 5 ポイントを取得することができます

受講方法 / お問い合わせ・お申込先

① ホームページよりオンライン登録

日本離床学会

検索

臨床を元気に! 日本離床学会

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-2-12 プラールビル 2F
ホームページ <http://www.rishou.org/> Eメール jsea@rishou.org
TEL 03-3556-5585 FAX 03-6272-9683

